箕輪城　高崎市箕郷町西明屋ほか

戦国時代初期に関東管領山内上杉氏の重臣長野氏によって築かれ、以降、長野氏 4 代の拠点となった城で武田信玄の度重なる侵攻を防ぎました。武田氏滅亡後には織田家臣 滝川一益が入城しましたが間もなく本能寺の変が勃発し撤退。箕輪城を手にしたのは小田原北条氏でした。豊臣秀吉の小田原征伐により小田原北条氏が滅亡すると 1590 年（天正 18 年）徳川家康の関東入りに伴い徳川四天王の筆頭井伊直正が城主になり城を近世城郭に改築したが、その後 8 年で直正は高崎城を築いて居城を移し箕輪城は廃城となる。現存する遺構は直正の城主時代に造られたものが多く大手の移設や主郭部分の石垣の多くは直正城主時代の遺構とされる(説明版)。

こちら側が大手口であった

木俣という家臣団の曲輪

郭馬出西虎口門

大堀切(濠の深さは可成りある)

三の丸

三の丸に至る石垣(地下 1m まで)

本丸堀の橋台

当時は跳ね橋を想定していた

城址の石柱

説明版